

### (3)三条市立保内小学校の取組

古田 純 (三条市立保内小学校 教諭)

1.三条市の山地と平野の接する地点に学校は位置しています。校区は山間から流れる2本の小河川が流れており、地域の傾斜地は大雨の時にこの小河川の洪水とともにいたるところで流水に遭いやすい地域特性があります。下流の平野部では線路との間の地域に水が溜まって洪水となります。また、山手では土砂崩れも起きています。このような地域の特性があるため、これを受けた防災学習が必要となります。今年も7月9日の水害で三条市の学校、全部休校になりました。教育委員会で判断してもらえるのでありがたいです。

2.保内小学校の防災教育について説明します。三条市では新潟県防災教育プログラムに基づいて平成25年度から防災の授業実践が始まりました。保内小学校では過去の校区で起きた災害と関連づけて、防災教育プログラムの災害種別の防災学習を年間計画の中に位置づけて実施しています。また、避難訓練については避難経路の確認、雪に対する注意など目的をはっきりさせ、さきほどの防災学習や過去の災害との関連をさせながら実践をしています。その他、今年度は6月に防災かべ新聞作り、8月の中学校区の防災キャンプ、10月の小中合同防災訓練などを行い、少しずつではありますが、着実に子どもたちに力がつくようにしています。

3-5.洪水に関する防災学習について3年生の実践を紹介いたします。本時のねらいは「洪水災害に関する現象についての理解を深める」です。最初に2年生で学習した大雨の時の行動の仕方について、子どもたちと思い出しながら復習しました。「高い所にいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」の3点を確認しました。2番目に降雨量の棒グラフを示し、雨の多い月とその理由について考えました。7月の大雨は梅雨が原因であること、台風が原因で大雨になることがあることを掴ませました。3番目に町が洪水になる仕組みはアニメーション動画を見たあと、気づいたことを子どもたちが発言しました。それを教師の作成したフラッシュカードでまとめていきました。4番目に大雨にあつて、発生する現象、つまり落雷、停電、車の渋滞が起こることについてニュース動画を視聴しました。そして、



**実践1 防災教育プログラム初の自校化による実践**

**保内小学校の取組** 周辺環境は？

- ◆山地と平地のさかい目
- ◆斜面では流水
- ◆平地部は、水が溜まりやすい。

**保内小学校の年間計画**

◆過去の災害と関連づけ、バランスよく県防災教育プログラムを配置する。  
◆地域の特性から、洪水の学習に重点を置く。

新潟地震 7-11水害	中越大地震	23大雪	東日本大震災								
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
防災学習	地震	洪水	土砂災害	電力力災害	雪害	津波					
避難訓練	避難経路確認	雪害想定	大雪者想定	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区
防災関係	新聞作り	防災かべ	防災キャンプ	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区	中学校区

**3年生の授業の流れ**

ねらい 洪水災害に関する現象についての理解を深める。

学習の流れ

- ①大雨時の行動の復習  
「高い所にいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」
- ②雨の多い月とその理由について考える。
- ③街が洪水になる仕組みについて考える。
- ④大雨の際、起こり得る災害について考える。
- ⑤学習して分かったことを確認する。

7月の梅雨に、大雨になりやすい。

**3年生の授業の流れ**

ねらい 洪水災害に関する現象についての理解を深める。

学習の流れ

- ①大雨時の行動の復習  
「高い所にいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」
- ②雨の多い月とその理由について考える。
- ③街が洪水になる仕組みについて考える。
- ④大雨の際、起こり得る災害について考える。
- ⑤学習して分かったことを確認する。

大きな川がある。小川やみぞがある。低い所に水がたまる。上流で大雨が降ると、大きな川があふれることがある。

動画資料とフラッシュカードで説明する。

児童の発言をフラッシュカードでまとめていきました。最後に学習のまとめをしてわかったことを書きました。

6.洪水学習を中心とする保内小学校の実践の成果と課題について考察します。1つ目の成果としては、授業後の子どもたちの変化として、以前より天気予報などの情報を見たり聞いたりするようになりました。そして大雨には長靴を用意するなど、天候に合わせた服装をしてくるようになりました。自然の変化に敏感になった姿を多く見かけようになりました。2番目の成果として、雨の多い7月に全校一斉で洪水学習を行うことで、子どもたちの洪水に対する意識を高めることができました。また、授業の様子を学年便りで紹介したり、期末 PTA 保護者会で話題にしたりする学年があるなど、保護者への広がりも見られるようになりました。課題の1番目としては、さきほどの航空写真で見たように、子どもたちの自宅の立地条件が異なるため、子どもたちの危機意識に差が見られることです。この点を埋める手立てが必要になると考えています。一例としては、過去の災害時の写真を学校で集積しておき、授業で子どもたちに見せ、地域による差が大きいことを視覚的に理解するようにすることが考えられます。2番目の課題としては、保護者を始め、地域の方々、諸団体との連携がまだ不十分であるということです。保護者や地域への啓発と地域の協力体制の構築を図る必要があると考えます。子どもたちが過ごす時間の多くは家庭や地域です。学校での防災学習や避難訓練で身に付けたものが、様々な場面で生きて働く力になるようにしていくことが望まれます。写真は2014年10月に行った小中合同防災訓練での地域の危険箇所巡視の様子です。地域の自治会長さんに過去の災害について教えていただいているところです。このようにして連携していきたいと思えます。

### 3年生の授業の流れ

ねらい 洪水災害に関する現象についての理解を深める。

学習の流れ

- ①大雨時の行動の復習  
「高い所にいる」「濡れる水に近づかない」「橋脚に注意する。」
- ②雨の多い月とその理由について考える。
- ③街が洪水になる仕組みについて考える。
- ④大雨の際、起こり得る災害について考える。
- ⑤学習して分かったことを確認する。

かなり  
落雷

ていでん  
停電

車が  
渋滞

ニュース動画から、子どもの考えを探る。

**【成果】**

- 1) 子どもたちは、授業後、天候に関心をもち、天気予報を見て、天候に合わせた服装をするなどの行動をとるようになってきた。
- 2) 雨の多い7月に、全校一斉で洪水学習をすることで、子どもたちの洪水に対する意識を高めることができた。

**【課題】**

- 1) 自宅の立地条件により、児童の危機意識に差が見られる。この点をうめる手立てが必要である。
- 2) 保護者や地域への啓発と協力体制の構築を図る必要がある。

【「地域の危険箇所巡視」】

